

第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート

作成日：令和5年 7月18日

更新日：

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	観光推進課
施策No.	21	施策名	観光の振興	施策主管課長名	飯野 一幸
施策関連課名			観光施設課		

1 施策の目的と指標

(1) 対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	(3) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
観光客	A 県内への入込客数	人
	B	
	C	
(2) 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	(4) 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
市内を訪れ、まちがにぎわう	① 北岳・広河原・芦安エリアの入込客数	人
	② 楡形山周辺エリアへの入込客数	人
	③ 市内の平地への入込客数	人
	④	
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 観光客の市内への訪問状況を示す/何人の観光客が市内を訪れたかは、実数で測ることができるので、成果指標とした。その内訳として、南アルプスエコパークの①核心地域、②移行地域、③緩衝地域の3つのエリアに分けて入込客数を把握することで、それぞれのエリアの入込客の増減の要因などを分析し、来訪者を増やしにぎわいを創出する取組みにつなげることができるので、3つのエリアに分けて成果指標とした。	
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 北岳・広河原・芦安エリアの入込客数(出典:県観光入込客統計)	
	② 楡形山周辺エリアへの入込客数(出典:県観光入込客統計)	
	③ 平地(①②以外)への入込客数(出典:県観光入込客統計)	
	④	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画				後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 県内への入込客数	人	見込み値					38,500,000	40,000,000	40,400,000	40,804,000	41,212,040	41,624,160
		実績値	31,461,975	32,045,792	32,161,839	37,687,727	34,645,512	16,884,267	17,937,425	26,699,489		
		見込み値										
		実績値										
成果指標 ① 北岳・広河原・芦安エリアの入込客数	人	目標値	-	-	-	-	-	25,250	26,500	26,800	27,100	27,400
		実績値	4,528	34,372	21,000	26,273	19,988	0	0	0		
		目標値	-	-	-	-	-	233,000	250,000	255,000	260,000	265,000
		実績値	177,326	204,311	196,993	223,491	180,614	142,966	165,368	278,678		
② 楡形山周辺エリアへの入込客数	人	目標値	-	-	-	-	-	285,600	300,000	306,000	312,000	318,000
		実績値	304,642	287,416	249,797	274,423	247,447	156,837	124,256	151,540		
		目標値										
		実績値										
③ 市内の平地への入込客数	人	目標値										
		実績値										
		目標値										
		実績値										
④												

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

①	令和元年度の成り行き値については、気象状況を考慮し、平成30年度の実績値の約5%と減とした。令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックにより訪日外国観光客が増加することから前年度の成り行き値の約1%増加を見込む。令和3年度は、令和2年内に中部横断道全線開通し、静岡方面からの山岳観光客が増加することを見込み、前年度目標値の約5%とし、それ以降は、リピート率の向上を鑑み毎年前年目標値の約1%の増加とした。なお、山岳観光については、その年の気象状況等により変動幅が大きいため、そのことを考慮し目標設定を行った。
②	令和元年度の成り行き値については、山梨県全体の観光客入込数の推移から平成30年度実績値の実績値の約2%と増とした。令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックにより訪日外国観光客が増加することから前年目標値の約2%増加を見込み、令和3年度は、令和2年内に中部横断道全線開通し、静岡方面からの観光客が増加することを見込み、前年度目標値の約5%とし、それ以降は、リピート率の向上を鑑み毎年前年目標値の約2%の増加とした。
③	令和元年度の成り行き値については、山梨県全体の観光客入込数の推移から平成30年度実績値の実績値の約2%と増とした。令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックにより訪日外国観光客が増加することから前年目標値の約2%増加を見込み、令和3年度は、令和2年内に中部横断道全線開通し、静岡方面からの観光客が増加することを見込み、前年度目標値の約5%とし、それ以降は、リピート率の向上を鑑み毎年前年目標値の約2%の増加とした。
④	

3 施策の役割分担

① 市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	② 行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> おもてなしの気持ちをもって観光客を迎える。 地域の観光資源に気付く、その魅力を発信する。 観光関係者(観光協会、団体、事業所等)は、連携強化に努める。 地域資源を活用した観光コンテンツの造成。 旅行消費を拡大し、地域経済の活性化。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報の発信 市営の観光施設の適切な維持管理 観光インフラ整備(サイン、道路、WI-FI)。 各種規制との調整。 観光関係者への各種支援措置

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

① 施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	② 関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年内に中部横断道(新清水JCTから双葉CT)の全線開通により、静岡県、愛知県等の東海エリアからのアクセスが向上し、山梨県を訪れる方が増加すると見込まれる。 リニア中央新幹線の開業を踏まえたインフラ整備が進むと見込まれる。 2020年の東京オリンピック・パラリンピックが開催されることにより、訪日外国人旅行者数が4,000万人を達成すると見込まれており、山梨県を訪れる外国人観光客数を増加すると見込まれる。 県道甲斐・早川線のトンネル開通することにより、広河原へのアクセスが向上することに伴い、南アルプス山域への登山者数が増加すると見込まれる。 観光協会、商工会、JA、交通事業者、宿泊施設、飲食店等が協働で観光推進するための観光地域づくり法人(DMO)の組織化が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議会から南アルプスエコパークを活用した観光振興を推進するよう求められている。 観光農業者からインバウンド観光客を推進するための情報発信力を強化(SNS対応)の要望がある。 インバウンドに対応した誘導看板の設置要望がある。 山岳観光の充実のため、市営芦安駐車場内におもてなしカフェの設置要望がある。 県道南アルプス公園線、県道南アルプス線において実施されているマイカー規制期間を延長を要望する意見がある。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	40	35	36	40	
関連事業予算額(単位:千円)	712,049	603,338	314,513	405,443	
国庫支出金	0	0	0	0	
県支出金	4,317	366	9,900	7,050	
地方債	448,500	316,600	12,700	116,900	
その他	34,067	34,374	39,626	38,973	
一般財源	225,165	251,998	252,287	242,520	

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		・北岳・広河原・芦安エリアの入込客数については、令和3年度が集計対象の基準(前年1万人以上)を満たしていないため令和4年度も集計が行われず、昨年同様把握できなかった。 ・楡形山周辺エリアの入込客数については、前年度より大きく増加し、目標値も上回った。 ・市内の平地への入込客数については、前年よりも上回ったが、目標値は下回った。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		・北岳・広河原・芦安エリアの入込客数については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため山小屋を閉鎖した影響から令和2年度分から集計が行われていない。 ・楡形山周辺エリアの入込客数については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からイベントなどは縮小したものの三密を回避できる手頃な観光地であるため前年にくらべ大幅に増加した。 ・市内の平地への入込客数についても、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止していた各種イベントも再開していることから、徐々に増加傾向となっている。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		成果指標と同じ所は存在しないため、全体としての評価となるが、山梨県全体の観光入込客数における本市の割合は約1.61%となっている。 世界遺産に登録されている富士五湖・東部エリアの約44.2%、八ヶ岳のある峡北エリアの約11.1%と比較すると、かなり低い水準である。 令和3年度についてもほぼ同様の割合となっている。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
・市内を訪れる観光客を増加させるために、県内外や海外へ観光プロモーションを行う。 ・地域資源を活かした観光振興に取り組み、外国人観光客を含む交流人口の増加につなげる。 ・観光施設を充実し、観光客の満足度を高め、南アルプス観光のグレードアップを図る。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 観光情報の発信	SNS、Webサイト、メディアなど多種多様な媒体を通じて、県内外や海外に南アルプス観光を発信していく。 特に、静岡山梨間が開通した中部横断自動車道の利活用を踏まえ、静岡方面への継続した観光プロモーションを積極的に行う。 また、新たな広域経済圏「山の州(静岡・山梨・長野・新潟)」の形成により長野、新潟方面への観光プロモーションにも取り組んでいくほか、VF甲府との観光連携も積極的に行っていく。 課題は、人員が限られているのでエリアや事業を拡大していく中でいかに効率的に実施していくか検討する必要がある。	SNS、Webサイト、メディアなど多種多様な媒体を通じて、県内外や海外に南アルプス観光を発信していく。また、SNSやHPを閲覧するためのきっかけ作りをしていく。 特に、中部横断自動車道の利活用を踏まえ、東海圏や長野、新潟への観光プロモーションを継続して行いつつ、今後、市内に出店予定の誘客施設での情報発信も進めていく。
2 観光客のニーズに合ったコンテンツの充実	新型コロナも5類となり観光客も増加傾向となってきている。山岳観光や果物観光だけでなく、スポーツツーリズムや歴史・芸術文化を活用した観光プログラムの開発、インバウンド需要に対しても取り組む必要がある。 今ある資源をいかに生かしていくかを市内事業者や関係団体と共に考え、テストツアーなどを実施しながら進めていく。 課題は、通年観光のコンテンツの造成や観光農園の確保。インバウンド誘客に向けたコンテンツの開発やSNSなどでの情報発信。	年間を通じて観光を楽しめるプログラムの創設を引続き観光協会や市内事業者と連携して取り組んで行く。 また、インバウンド誘客に向けたコンテンツなどについて調査・研究していく。
3 観光施設を活用した誘客の促進	山岳観光について、新型コロナが5類に移行されたこともあり、南アルプス山域の山小屋の予約も好調であり、コロナ前の活気が戻ってきた。来訪者に対する、観光施設や特産の果物等の案内を徹底し、本市の魅力を伝えていく。広河原山荘では、登山客利用以外の利用を促進させるため、環境教育モニタープログラムの試行的な取り組みを行い、ニーズを探る。 今年度、楡形山及び伊奈ヶ湖周辺保全活用の基本構想をまとめることになっており、学び、癒し、楽しみの場として、新しい南アルプス観光スタイルの土台作りを行う。施設整備面では、7月下旬に伊奈ヶ湖新規駐車場の整備を完成させ、来表者の利便性向上を図る。 また、夜叉神峠登山口への県道甲斐早川線のトンネル残土を活用した駐車場整備について道筋を付け、市営芦安駐車場及び夜叉神峠周辺の観光活用について、通年型観光を視野に検討を進める。	既存施設については、観光PR活動や各種広告媒体での紹介を行い、施設を知ってもらうと取り組みを地道に行う。 伊奈ヶ湖周辺については、体験プログラムの充実を図り、リピート率を高めていく。 また、楡形山及び伊奈ヶ湖周辺の保全活用については、令和5年度にまとめることになっている基本構想をベースに基本計画をまとめる。
4		
5		